

チューリップテレビ開局30周年記念

画壇の三筆

熊谷守一・高村光太郎・中川一政の世界展

2021年10月8日(金)～11月28日(日)

会期中、一部展示替えを行います。

開館時間 午前9時30分～午後6時(入室は午後5時30分まで) 休館日 月曜日、11月4日
主催 富山県、画壇の三筆展実行委員会(富山県水墨美術館、チューリップテレビ) 共催 北日本新聞社
後援 MRO北陸放送 協力 高村光太郎連翹忌運営委員会 企画協力 晴耕雨読
協賛 インテック、カシイ、金岡忠商事、GALLERY KUGO、ケンケン、五万石本店、東芝インフラシステムズ、
富山育英センター、トヨタモビリティ富山、ナリキ、日本海電業、北陸銀行、源、ユニゾン(五十音順)

富山県水墨美術館

THE SUIBOKU MUSEUM, TOYAMA



左より 中川一政《鯛・大器晩成》1977年 白山市立松任中川一政記念美術館蔵

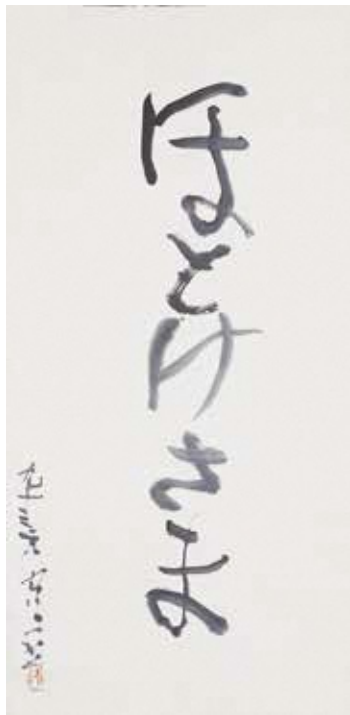


高村光太郎《リンゴばたけに『有機無機粘』》1954年頃 公益財団法人日本近代文学館蔵

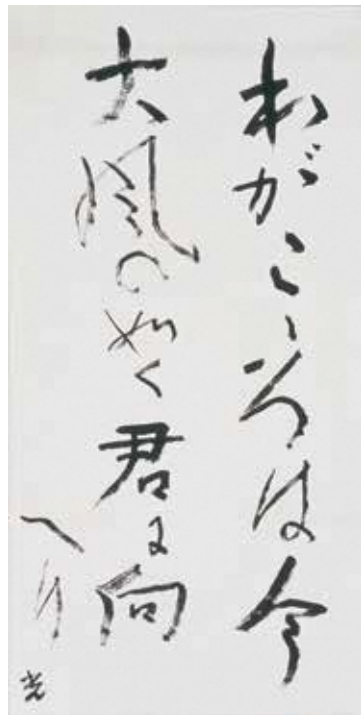


熊谷守一《猫》1976年 公益財団法人熊谷守一つちけ記念館寄託

「書は最後の芸術である」——高村光太郎晩年のこの言葉に引き寄せられるように、「画壇の三筆」と題して、熊谷守一（画家）、高村光太郎（詩人・彫刻家・画家）、中川一政（画家）の三人展を開催します。明治・大正・昭和へと連なる日本の近代美術の展開のなかで、ほぼ同時代を生きた三人の芸術家。その作品は、〈西洋〉化する日本の美術と〈東洋〉的な精神との折衝のなかから出現した、《模倣を嫌う》確固たる日本人の絵であり、彫刻であり、その書にはそれぞれの芸術観がよくあらわれています。本展では、書作品に、日本画、墨彩画、彫刻、陶芸を加えて、三人の芸術の足跡を辿ります。生涯にわたって美の理想を問い続けた三人の日本人芸術家が到達した、究極の表現世界をご覧ください。



1 熊谷守一《ほとけさま》1972年 旧白洲邸 武相荘蔵



2 高村光太郎《わがこころは今『智恵子抄』》制作年不詳 公益財団法人羽根美術館蔵



3 中川一政《正念場》1989年 真鶴町立中川一政美術館蔵



4 熊谷守一《蟻》1977年 公益財団法人熊谷守一つけち記念館寄託



熊谷守一 くまがいもりかず
1880年(明治13) - 1977年(昭和52)
岐阜県恵那郡那知村生まれ。東京美術学校洋画科で油彩画を学んだが、世俗や束縛を嫌い、自宅の庭で眼前の自然や命を見つめ、97歳まで描き続けた。独特の油絵の画風は「モリカス様式」と呼ばれる。

©藤森武



高村光太郎 たかむらこうたろう
1883年(明治16) - 1956年(昭和31)
木彫家の高村光雲の長男として東京に生まれ、東京美術学校で彫刻と洋画を学んだ後、欧米留学。ロダンに傾倒し、フランスの詩も学ぶ。帰国後は彫刻や評論、詩集『道程』『智恵子抄』などで知られるようになった。



中川一政 なかがわかずまさ
1893年(明治26) - 1991年(平成3)
東京に生まれ、ゴッホやセザンヌに触発されて独学で油絵を描き始めた。岸田劉生に認められて二科展に出品。小杉放菴とともに春陽会を創立し、自由奔放な色彩と筆致による油彩画を発表した。

©片山攝三

映像でみる三巨人

会場：映像ホール 各日①午前11時～②午後2時～ 各回先着定員50名 <入場無料>



©2017「モリのいる場所」製作委員会

I. 「モリのいる場所」 10月9日(土) 11月7日(日)

二人の名優による円熟の老夫婦の姿。熊谷守一夫妻の日常を描いた傑作。
監督：沖田修一 出演：山崎努、樹木希林 2018年/99分
※「モリのいる場所」のみ、上映開始1時間前に入場整理券を配布します。

II. 「高村光太郎」 10月10日(日) 11月13日(土)

1954年/約9分 プリヂェストン美術館美術映画シリーズより

III. 「中川一政生誕百年 記念番組」 10月17日(日) 11月6日(土)

1992年/53分 制作：北陸放送・北陸スタッフ

ギャラリートーク

会場：展示室1・2 ※要・当日有効の本展観覧券

- ① 10月16日(土) 午後2時～
講師：徳井静華氏
白山市立松任中川一政記念美術館 学芸員
- ② 11月3日(祝) 午後2時～
講師：高松源一郎氏 晴耕雨読 代表
- ③ 11月21日(日) 午後2時～ 講師：当館学芸員

開催内容等は、変更・中止する場合があります。
最新情報やイベントの詳細は、ウェブサイト等で確認いただくか、美術館までお問い合わせください。

当館では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策に取り組みながら開館しております。ご来館の際は、マスク着用や手指の消毒など、感染防止の取り組みにご協力ください。また、展示室への入場制限をおこなう場合がありますのでご理解のほどお願いいたします。

観覧料 一般 1,200(1,000)円 大学生 1,000(700)円
前売一般のみ 1,000円

※()内は20人以上の団体料金 ※小・中学生・高校生及びこれらに準ずる方、各種障がい者手帳をお持ちの方は無料 (前売券販売所) 富山県水墨美術館、富山県美術館、アーツナビ(富山県民会館、富山県教育文化会館、富山県高岡文化ホール、新川文化ホール)、富山大和5階、BOOKSなかだ、文苑堂書店、明文堂書店、ローンチケット(Lコード55080)、チケットぴあ(Pコード685-761) ※前売券の販売=10月7日まで

常設展示 近代水墨画の系譜 下保昭作品室 ※企画展の観覧券でご覧いただけます。
館内施設 茶室「墨光庵」(立礼席、薄茶とお菓子)土日祝のみ営業)
ミュージアムショップ「風花」※展示室外入場無料
次回企画 ひらけ墨画ワールド 子どもたちとともに 尾長良範 筆あとから
2022年1月14日(金) - 3月6日(日)

交通のご案内 【富山駅南口から】◎市内電車(大学前行)「トヨタモビリティ富山 Gスクエア五福前(五福未広町)」下車、徒歩約10分 ◎地鉄バス③乗場から小杉・高岡方面行「五福未広町」下車、徒歩約10分/の乗場から四方・呉羽山老人センター・石坂・北代循環行「畑中」下車、徒歩約10分 ◎タクシー約10分 【富山空港から】タクシー約25分【北陸自動車道】富山IC、富山西ICから自動車約20分 【無料駐車場】乗用車165台、バス7台

富山県水墨美術館

THE SUIBOKU MUSEUM, TOYAMA

〒930-0887 富山県富山市五福777
Tel: (076) 431-3719 Fax: (076) 431-3720
https://www.pref.toyama.jp/1738/

